

OBI NEWS Letter

同窓会 23号

お茶の水聖書学院同窓会発行

東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2F

〒101-0062 TEL03-3296-1006 FAX03-3296-4641

巻頭言「兄弟愛の実践」

副学院長 世良田湧侍

「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。望みを抱いて喜び、艱難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。互いにひとつ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っはいけません。」(ローマ12章9-16節)

OBIを卒業された皆様、お元気でしょうか。

今回は、対神、対人関係を貫く愛を考えてみました。

対神的な関係が愛(アガペ・9節)であるように、対人的な関係の基本は、兄弟愛(フィレオ・10節)といえます。愛(アガペ)は人に対して用いられる場合もありますが、ここでは博愛(アガペ)ではなく、兄弟愛(フィレオ)が使われています。いずれにせよ、愛には偽りがあってはなりません。偽りの愛のサンプルといえば、ユダの接吻があります。師よと呼びながら裏切りの合図に偽りのキッ



スをすると! 真実なキリストの弟子にこのような偽りの愛があつてはなりません。真実な兄弟愛を培いましょう。そこで、さらに兄弟愛を持続するために、主に対する愛がしっかりしていることです。主との関係(縦関係)が明確であれば、兄弟との関係(横関係)も正しく働きます。主にある兄弟を相互に暖く愛し尊敬しましょう。そのために他人を自分よりまさっていると思いましょ。これはキリストの心(模範としてのキリストの姿=ピリピ2:3)です。まず霊に燃えることです。個人的・内的な祭壇に信仰の火が燃え続けているためには、毎日神との霊的な交わりを続けることです。いつでも祈り(12節)聖書を開き、神と交わるのです。希望をもって喜び、艱難を忍耐しましょう(12節)。また勤勉で怠慢にならないように励みましょ(11節)。

こうして、個人的に明白な信仰が築き上げられたなら、その愛のこころを他人に働かせましょ。そうするとき「他人のことをも顧みる」大人に成熟したクリスチャンの姿となることができます。聖徒の入用に協力することは、緊急な場合、主にある聖徒の困窮が迫っているときなどに経済的な援助をすることです。自分は教会に十分献金しているからなどと理屈を並べて、見て見ぬ振りをしてはいけません。神に祈って自分から額を決め、必要に応えましょ。旅人をもてなすことは、日本の住宅事情から家庭に招いてもてなす習慣がありませんが、海外ではよく体験いたします。たとえ狭くても、旅人をホームステイに招く心がけは必要です。(当時の事情もありましたが)。祝福しなさい。のろってはいけません。共に喜怒哀楽を共感ましょ。(15節)喜びは共感しやすく、悲しみは分けにくいといわれます。立場の低いものに順応することは自分自身の罪を考えれば、決して高ぶることは出来ないはずで。主の十字架を覚えましょ。そして主の一致は作るものではなく、互いに保ち合うものであることを忘れないましょ(エペソ4:3)。OBIの同窓生は、こうした愛の実践を各教会で証しましょ。また、主に仕え、教会に仕えましょ。そして世の光として輝かせていただきましょ。

第12回 OBI同窓会総会

「東京ドームが下に見える!」、
「素晴らしい眺めですね」、会場に来られた方々の
第一声です。今年のOBI同窓会総会は、その会場の素
晴らしさの感嘆に包まれました。会場は御茶ノ水駅前
ビル21階「銀座アスター」でした。

4月23日(月)午前11時半、増田学院長、世良田副学院
長、藤原副学院長、福井教務主任の列席を賜り、同窓
生23名の出席のもと、同窓会は始まりました。
同窓会は、一部が総会、二部が愛餐会と交わりの時で
した。

総会は、中島總一郎兄の司会のもと、賛美と祈りから
開始しました。三浦秀弥同窓会会長の挨拶の後、増田
学院長より「イザヤ書63章8,9節」の御言葉から奨励
を戴きました。次いで福井教務主任から、OBIの現況
報告がありました。OBIの事務室と教室が5階から2階
に移転したこと、OBI所有の図書館のデータ化を進めて
いるとの話しがなされました。その後、議案の審議に
入り、会計に関しては戸川偕生兄から2006年度決算報
告と2007年度予算案の報告、森本顔姉より2006年度の
会計監査報告、それぞれ全会一致で承認されました。
次いで、三浦同窓会会長からこの一年の同窓会の歩み
の報告があり、その後、新役員の審議がなされ全員の
賛成により下記役員が決定いたしました。

会長：三浦秀弥兄 会計：戸川偕生兄
庶務：芳賀功兄 会計監査：田中恵子姉(新)
A.D：杉山礼子姉、浪井弘子姉

二部は浪井弘子姉の司会によって進められました。
森登兄の愛餐の感謝の祈りが捧げられて後、美味しい
中華料理を戴きながら、料理の量も最適で楽しい交わ
りの時となりました。そのうち、全員が自己紹介兼ね、
近況報告を致しました。それぞれが主の良き証し人と
して用いられていることを知り、お交わりを感謝しま
した。特に増田学院長はアメリカ出張からお帰りなっ
たばかりでしたが、昨年8月肺癌手術されたことを感じ
させないお元気を様子に一同、主の御名を崇めました。
席上、三浦喜代子姉より研究科リサーチコースの内容報
告、及び後援会の働きと協力依頼が話されました。久
し振りにお会いした方々もおられ、話が尽きないうち
に予定の三時間が来てしまいました。有田貞一兄の閉
会祈禱をもって、同窓会は無事終了いたしました。
今回会場設定について、初めてのことで、会長のご尽力
があった事申し添えておきます。(戸川偕生兄)



B

(写真提供は、世良田副学院長です。)

OBI同窓会の交わりの「一時、一言」

着席順、寄せ書きの通りです。

「主は昔からずっと背負い抱いてこられた。(イザヤ63.9)」増田誉雄 「神の摂理(創45.8)」世良田湧侍
「参加させて頂きありがとうございます。」藤原導夫 「同窓会の皆様には、広報活動はじめ、多くのお力添えをいただき感謝しております。主の恵みを切に祈りつつ。」福井誠 「参加できて感謝です。尚OBIの発展を祈ります。(マタイ28:19)」川村和臣 「なつかしい人達とお会い出来感謝です。」モンマ 「イザヤ63の8と9、楽しいひと時感謝」森 登 「いつも喜んでいなさい。(第一テサロニケ五章十六節)」飯島多塚夫
「わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルに膝をかがめず、バアルに口づけしなかつた者である。(1列王19.18)」有田貞一

「来年もここでしましょう。会長さんよろしく。」三浦喜代子 「初心を忘れず、信仰、希望、愛を求めつつ歩んでいきたいと思えます。」杉山礼子 「いつも同窓会に出席し皆様と共によるこびを味わう事が出来て感謝です。ますます、OBIの発展を祈りつつ、学び続けたいと思えます。」浪井弘子 「OBIで学べて感謝です！祈ってゆきます。」福井 「心さわがせるな。神を信じ、また私を信じなさい。」老境への私のみ言葉です。松岡常子 「同窓会に参加させていただき、感謝です。三年ぶりに学びにも参加させてもらっています。」米田由起子 「洞察に富んだ人に出会ったら、朝早くからその人のもとに行き、戸口の敷石が磨り減るほど足しげく通へ(シラ書8:36)」渡辺英子
「神には約束されたことを成就する力があることをかたく信じました。(ローマ4.21)」お交わりを大切にしていきたいと思っております。窪田淳子 「OBIの三Kの精神をいつも心に、主のため、教会に、人々に仕えていきたいと思っています。」田中恵子 「久し振りの先輩方々、先生方お会いし、お交わりが出来て嬉しいです。(ピリピ2:13)」有田美栄子

「ハレルヤ、主の聖名を賛美致します。霊に燃え、主に仕え、望みを抱いて喜び、患難に耐え常に祈りなさい。」皆様の上に祝福をお祈り申しあげます。上三川教会牧師 繪鳩 彰 「すべてのこと感謝、さらに同窓会が祝されますように。(ゼパニヤ3:17)」戸川偕生 「私は道であり真理であり命である。」増尾邦子 「同窓会に初めて出席させていただいた吉村です。これからも宜しくお願いします。」吉村瑠美子 「たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新しくされています。(IIコリント14:16)」伊藤洋子 「いつまでもお元気で学院長をお祈りしています。」増尾善文
「主と共にOBIに常にいられることに感謝しています。」中島總一郎 「睦の時、主よ、ありがとうございます！」三浦秀弥

新会員紹介

「あなたが切り出された岩、掘り出された穴を見よ」

(イザヤ51:1) 14期卒業 伊藤 洋子姉

或る日の午前、祈祷会のために教会の玄関に入ろうとした時、送迎用のワゴン車が目の前に停まった。運転して来たのはうら若き女性である。昨年度までは修養生として、今年度から副牧師に、新たな奉仕へと忙しい日々を送られている。このような可憐な女性が三人、力強い主への働きをしておられる。

フツと私は立ち止まってしまった。「この人たちはこんなに若くして仕事ができる人として主に用いられている。私が主に仕えると言ってみても、何も出来ないではないか。車の運転もオートマ車だけで、高速にも乗れない。銀行の振込も容易ではないし、奏楽もパソコンも駄目・・・」という具合に。

OBIを卒業してから結構、勇んで主に仕えようとあれこれ思いを巡らしていたのに、突然、私は自信を失い、「ああ、私という人間は何故こんなにも長い年月を無為な時間を浪費してしまったのか。何故もっと若く可能性がぎゅーと詰まっていた時に神を知ることができなかったのか。海外宣教に、神学校にもはいていたこと

だろうに・・・」とたんに絡んだ風船のようになった私は諦めに似た力の無いつまらない私になってしまった。

何日か、ぼんやりした状態で過ごしている中に、――主は彼に仰せられた。「誰が人に口を付けたのか。誰がおしこしたり、耳しこしたり、あるいは目を開けたり、盲目にするのか。それはこのわたし、主ではないか。さあ行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教えよう。」(出エジプト記4:11~12)

そうだ、私がなすべき仕事は主が教えてくださるのだ。

「主御自身があなたの先に進まれる。」(申命記31:8)

「日ごとこわれらの荷を負い給う主、我らの救いの神はほむべきかな」(詩篇68:19)

OBIに導かれるまで 14期卒業 吉村 瑠美子姉

【生い立ち】

私は、三人姉妹の次女として大阪で生まれました。キリスト教とはまったく縁のない家庭でした。しかし母はどういうわけか私を近所にあった「カトリック」の幼稚園に通わせ、

姉はこれも近くにあった「成長の家」という宗教がやっていた幼稚園に通わせていました。祖母や母は他の宗教、祖父や父は無宗教とまったくバラバラな家庭環境に育ちました。しかし、子供心に神の存在を信じていました。

成長し兵庫県から東京へと引越し、やがて結婚へと導かれ、三人の子供も与えられ、一見平和で穏やかなようでしたが、生き方や人生の目標とするものがない中、家庭がギクシャクしてしまい”あ〜このままではダメにな…”と思ひ煩いの日々が続きました。

【信仰へ】 そんな時、主人の岐阜への転勤があり、両親、姉妹のいる東京から離れ、初めての地へ向かいました。「荒野への旅立ち」です。この荒野の中でこそ主とお逢い出来ることを当時は知る由もありません。岐阜市の笠松キリスト教会の伝道集会を通して受洗へと導かれました。それから、東京にもどり朝顔教会に通うようになり、充実した日々を送っていました。

【OBIへ】 ある時、自分の聖書に対する知識のなさ、また家族に伝える方法もわからない、このままではいけないと思っていたとき教会の姉妹から、OBIのことを聞き、おそろおそろ通いいただきました。数年間は一年1教科だけの学びだけでした。時間的なことや経済的な事もありましたが、十年も学ぶことができるとは思っていませんでした。2007年3月10日OBI第14回卒業生として卒業できたことは夢のようです。現在の私は 教会学校の教師としての奉仕と、在学中に受けることのできなかつた先生の講義を受けるためにもう一度OBIに通っています。これからの歩み「静まって主を待ち望み、祈って、持てる力を存分に用いるものとなるように」信仰の旅路を続けたいとねがわれます。

(OBIで出会った人)

「あるレーマンから教えられたこと」 小林 則義

OBIでは多くの人に巡り会える機会がありました。その中で私は2005年のクリスマス集会で一人のレーマンとお会いしました。初対面のその方といきなり2時間ほど話し込んでしまいました。その方はなんと50名を超える教会を牧会されていました。10年ほど前、3名の信徒の方と家庭集会から始められ、現在のような形になったそうです。次の年には新会堂を献堂する構想を持っておられました。教会墓地は既に用意されているとのことでした。私は彼に伝道、牧会に何か特別な方法でもあるのですかとお聞きしました。しかし、教会はオーソドックスな福音派で、説教も、教会音楽もとくに目新しいものではありませんでした。私は話をお聞きしてこのレーマンに秘密があるとわかりました。彼は現職の中学校の教員で超多忙の生活を月曜日から金曜日までこなしていました。その

ストレスは相当なものだと思いました。私も中学校の教員をやってきましたのでご苦労はよくわかりました。彼はこの職場と生活の中で作られる説教を毎週語っているそうです。説教は彼の仕事と生活そのものだそうです。これは説教的には拙いものかもしれませんが、説得力のある生きた説教だろうと思いました。スポルジョンがあつた雪の中、教会で聞いたレーマンの説教にも似た説得力あるものだろうと思いました。そしてもう一つ驚いたことは、水曜日の夜の祈祷会に毎週40名の方が集まるそうです。ほぼ全員が集まるそうです。それはこのレーマンがどんなに忙しい生活の中でも祈祷会を守り、何を第一にすべきか無言のメッセージを発しているからだと思いました。

私はこのレーマンと語り合い、実生活に生きている信仰、信仰に生かされている実体験こそが福音宣教の基本であることを再確認しました。福音宣教は福音によって力強く生かされていることにあり、技術論や方法論が第一ではなく、福音の本質を、信仰の本質を自らが吟味し、それに生かされることからはじまることを再確認しました。これは私にとって目の覚めるような出来事でした。今日のような日本ではとくに本物が求められています。人は本物を求めています。本物があれば人は求めてきてキリストの福音に触れることができます。

このレーマンから教えられたことは一福音宣教は福音によって自らが力強く生かされていることにあり、技術論や方法論が第一ではない—ということでした。

「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」

(Iペテロ3章15節)

OBIの近々予定

7/9~11. OBI夏季スクーリング 軽沢恵みシャレー

「歴史は語る」講師：横山武先生

9/21. 前期授業終了 10/1. 後期授業開始

10/20. 教会音楽会 12/6. OBIクリスマス祝会

OBI同窓会会計報告

2007.5.31現在

収入 献金28名 ¥147,000 支出 ¥23,588

前年度繰越金 ¥41,080 残金 ¥164,492

献金者御名は次回号にて報告させていただきます。

編集後記

新年度同窓会、既にスタートしています。今年度も忙しくなそうです。総会、懇親会も楽しい思い出の彼方の感！同窓生皆様の協力を頂きたがって2007年度、同窓会出発進行！

OBI学院長を初め、先生方々御一人おひとりの上に、健やかな日々が与えられますように。同窓生、御一人ひとりの上に平安がありますように。在主。2007.5.31. 編集子 早歳半ば 梅雨の先